

1994年第2回浜松国際ピアノコンクール優勝者



ヴィクトル・リャードフ

ピアノリサイタル

—イタリア音楽紀行—



関西から

文化力

文化庁関西元気文化圏参加事業

第2回ヴィクトル・リャードフピアノセミナーイン大阪オープニングコンサート

Victor Lyadov Piano Recital

2004.11.16 (火) 19:00

ザ・フェニックスホール

【主催】ヴィクトル・リャードフ ピアノセミナー実行委員会

【後援】社団法人 全日本ピアノ指導者協会

ピアノサロン 遊音堂

在大阪ロシア連邦総領事館

株式会社 音楽之友社

株式会社 レッソンの友社

【協賛】株式会社 河合楽器製作所 関西支社

Program

- ♪ メンデルスゾーン (1809年~1847年)
ヴェニス Gondola 舟歌 イ短調 Op.62-5
- ♪ A. マルチェッロ (1669年~1747年)
協奏曲 二短調
1. Andante e spiccato 2. Adagio 3. Presto
- ♪ メンデルスゾーン
ヴェニス Gondola 舟歌 ト短調 Op.19-6
- ♪ スカルラッチィ (1685年~1757年)
3つのソナタ ・ト長調 K.152 (L.179)
・二長調 K.96 (L.465)
・ホ長調 K.162 (L.21)
- ♪ メンデルスゾーン
ヴェニス Gondola 舟歌 嬰ハ短調 Op.30-6
- ♪ クレメンティ (1752年~1832年)
ソナタ 嬰ハ短調 Op.25-5
1. Allegro con espressione 2. Lento e patetico 3. Presto
- ♪ ショパン (1810年~1849年)
パガニーニの思い出 (ヴェネツィアの謝肉祭) 遺作
タランテラ Op. 43
- ♪ リスト (1811年~1886年)
巡礼の年 第2年補遺「ヴェネツィアとナポリ」
1. Gondola 舟歌
2. Canzone
3. Tarantella
- ♪ プーランク (1899年~1963年)
ナポリ ~ピアノのための組曲~
1. 舟歌
2. 夜想曲
3. イタリア風奇想曲



Profile



Victor Lyadov

モスクワ音楽院附属中央音楽学校でウラジーミル・ブーニン氏に師事し、モスクワ音楽院、同音楽院大学院で世界的名ピアニスト故タチアナ・ニコライエフ教授クラスに学ぶ。大学院修了後はニコライエフ教授が亡くなるまで、同音楽院で同教授のアシスタントとして教鞭をとっていた。

ロベルト・シューマン国際ピアノコンクール(ドイツ)、パロマ・オシェア国際ピアノコンクール(スペイン)、ソニア王妃国際ピアノコンクール(ノルウェー)、エリザベート王妃国際ピアノコンクール(ベルギー)など数々の国際コンクールで入賞。1994年第2回浜松国際ピアノコンクールでは優勝を果たし、一躍世界的な脚光を浴びる。

現在は、モスクワを拠点にドイツ、オーストリア、スペイン、ノルウェー、イギリス、ベルギー、ユーゴスラビア、リトアニア、ポーランド、アメリカ、エクアドル、韓国、日本など各国で演奏活動を行う。また、多忙な演奏活動の傍ら、CD録音や日本での第1回浜松国際ピアノアカデミー、白馬ミュージックキャンプ、東京音楽大学、昭和音楽大学、カワイのマスタークラス他、世界各国で定期的にマスタークラスの指導を行うなど、教育活動にも力を入れている。

ごあいさつ

本日は、ご多忙の中、ヴィクトル・リヤードピアノリサイタルにご来場賜り、誠にありがとうございます。「ヴィクトル・リヤードピアノセミナーイン大阪」も、皆様方はじめ多くの方々のご支援により2回目を迎えることができました。

本日ザ・フェニックスホールにヴィクトル・リヤード氏を迎えてのこのコンサートは、「第2回ヴィクトル・リヤードピアノセミナーイン大阪」のオープニングコンサートとして開催させていただくものです。1994年第2回浜松国際ピアノコンクール優勝以来、世界の檜舞台で活躍を続けるリヤード氏の素晴らしい、また心温まる演奏をご堪能いただけましたら幸いです。

明日からは、1週間に渡って、大阪市福島区のピアノサロン「遊音堂」において若手演奏家を対象としたリヤード氏によるレッスンが行われます。第一線で活躍するピアニストによるレッスンを求めて、関西のみならず、東京、名古屋、浜松、倉敷、愛媛からも前回ははるかに上回る多数の方々からのお申し込みがあり、書類審査を通過した20名のピアニストがセミナーを受講されることになりました。9歳、12歳という若い才能からコンクール入賞歴豊富な演奏家や音大教員、中には留学先から一時帰国して駆けつけられる受講生もおられます。

このセミナーで、若い才能あるピアニストたちが、リヤード氏から多くを学び、将来の関西音楽界を支える人材に育ちますよう、また、これからの関西の音楽界がますます発展していきますよう、切に願ってやみません。

最後になりましたが、「第2回ヴィクトル・リヤードピアノセミナーイン大阪」にご協力いただいた方々に、あらためて感謝を申し上げます。

ヴィクトル・リヤードピアノセミナー実行委員会

～♪～

本日のプログラムは「イタリア音楽紀行」と題し、イタリアに関する作品ばかりが演奏されます。外国人旅行者がヴェネスを訪れて gondola に乗りながら町を観光していくように、リヤード氏が演奏する3つの「ヴェネスの gondola の舟歌」が船頭役となり、皆様をイタリア音楽の世界へと導いてくれることでしょう。さらにバロックのマルチェッロに始まり、近現代のプーランクに終わるというように、時代をも旅する演出がなされています。もちろんアンコールも今回のプログラムのテーマに沿って決められているそうです。

なお、プログラムの解説はリヤード氏自身によるものです。

プログラム解説

ヴィクトル・リヤード

このプログラムではイタリア音楽、特に「音楽」の都市として知られるヴェネツィア・ナポリの2都市の音楽を取り上げます。イタリアの作曲家(マルチェッロ・スカラッティ・クレメンティ)の作品が演奏されるプログラムの前半は、イタリアを旅行している外国人であるメンデルスゾーンの目線で捉えられています。つまり彼の3つの「ヴェネスの gondola の舟歌」はイタリア人作曲家の作品の先駆けとなり、私たちにイタリアを旅している感覚を与えながら、それぞれの作曲家を紹介する役割を果たしているのです。メンデルスゾーンの「舟歌」は次の作品に向けて入念に調性を揃えられています。例えば1曲目のメンデルスゾーンの「舟歌」はイ短調ですが、その結末はイ長調となり、次のマルチェッロの協奏曲ニ短調のドミナントとして現れます。マルチェッロの協奏曲はニ長調で終わり、その次に演奏されるト短調の「舟歌」のドミナントになります。ト短調の「舟歌」の次は同主調であるスカラッティのト長調ソナタが演奏されます。3つ目の「舟歌」は嬰へ短調で書かれており、次のクレメンティの嬰へ短調ソナタと同じ調で揃えられています。そのため、このコンサートの前半は共通したコンプレックスでドラマティックにまとめられているのです。また、マルチェッロ・スカラッティ・クレメンティの作品を年代順に整理してみると、年代が古いほどピアニスト(ヴィクトル・リヤード)が即興の「共同制作」の原則により

大きく従うことがはっきりと分かります。スカラッティの作品では装飾音の奏法は全て演奏者に委ねられており、さらにマルチェッロの「協奏曲」においては、即興のレベルがピアニストによる「コンサートでの編集」と呼ばれてもおかしくないという域にまで達していると言えるでしょう。マルチェッロはこの編集の際、J.S.バッハによって書かれた「協奏曲BWV974」に倣っています。

～♪～

プログラムの後半は、自分たちの創作活動の方向性をイタリア、特にヴェネツィア・ナポリの2都市に見出しているイタリア人以外の作曲家(ショパン・リスト・プーランク)の作品から構成されています。

演奏されることが稀なショパンの作品「パガニーニの思い出」で後半が始まります。この作品には、イタリア国民の歌を主題とした変奏曲「ヴェネツィアの謝肉祭」の小連作が含まれています。19歳のときショパンはワルシャワでパガニーニの公演に足を伸ばし、そこでパガニーニのこの主題での変奏曲を耳にしました。ショパンははつらつとしたパガニーニとは違い、自分のスタイルを守り通してこの変奏曲に叙情的な雰囲気を持たせたのです。ショパンの変奏曲は、円熟期のショパン自身によって書かれた子守歌作品57に影響を与えたようです。

タランテラ作品43もステージであまり演奏されることがないのですが、この作品でショパンは、自分の構想と有名なタランテラの手本、例えばロッシーニの作品などを比較しながら、この伝統的なイタリアのジャンルの規則に正しく従っています。

3つの小品《ゴンドラを漕ぐ女》、《カンツォーネ》、《タランテラ》から成るリストの組曲「ヴェネツィアとナポリ」はピアニストにとって最も人気のある作品のひとつです。この奥深く、大変ドラマティックなリストの作品はイタリア国民の気質に礎があり、また、カンツォーネではロッシーニのオペラ「オテロ」からの抜粋も引用しています。このたいへん美しい作品の中で彼は、隠された善と悪、純潔と悪徳、さらに罪とそれに対する報復を表現しています。そのことによってリストはただの傍観者ではなく、哲学者でもあることがわかります。

短い3つの小品《舟歌》、《ノクターン》、そして《イタリア風奇想曲》からなるプーランクの短い組曲「ナポリ」は、彼自身が印象主義派の敵のような姿勢をとっていながらも、その内容はたいへん印象主義的であります。また、この組曲の響きはかなり鮮明な視覚的イメージを与えてくれます。伝統的な温かみのある魂のこもった舟歌は、プーランクのもので、軽い音程の狂いととも速い水の流れをも表現するほど、陽気ですばらしいものとなりました。さらに、さんと輝いている太陽や、日常の都市での醜悪な側面も少しその中に感じ取ることができます。ここで、前半の「ヴェネスの gondola の舟歌」で聞いた船頭の汽笛の音が広まるのです。

ノクターンは、反対に闇夜の中で驚くほどまばゆい月の光に満ちています。これは単に夜のメロディーであるだけでなく、磯波の跳ね上がった音を伴った月そのものによる子守歌であります。私たちが月を真正面に見るとき、いつも変わらないのと同じように、この曲も長く、一樣、そして無限で、時間の概念を欠いているのです。この平穏な感じは途中で途切れ、叫び声や非難やいさかいから成る、「夜の大騒ぎ」と呼ばれてもおかしくない短い日常生活のシーンが現れます。これはいつも静かな夜によって包み隠されている冬の生活の一部なのです。

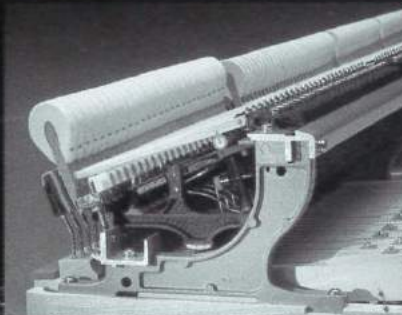
イタリア風奇想曲でこの組曲を、そしてこのコンサートを締めくくります。これはナポリの生活についての一種の「ドキュメント映画」です。明るいたらんテラがこの上ない物憂げなロマンス曲に、そしてそれがエネルギーに満ち溢れる行進曲に変わり、まばゆい花火のようなフィナーレで幕を閉じるのです。

日本語訳：佐伯 理恵子



New RX-7G

指先に感じる進化。



NEW RXseries

ニューRXシリーズ誕生

次世代を担う新素材アクションが、さらなる表現力をめざして進化しました。木材では不可能であった形状と性能を実現した「ウルトラ・レスポンス・アクションⅡ」。カーボンファイバーをベースにした新素材を使用することで、連打性とコントロール性をさらに向上させました。全機種にこのアクションを搭載し、細部にわたり進化したニューRXシリーズ。指先の感触を、そして自分の感性を大切に、表情豊かな音楽を求めるあなたのために、いまカワイから誕生。

New RX-7G	2,782,500円(税込・椅子別売)
New RX-6G	2,362,500円(税込・椅子別売)
New RX-5G	1,942,500円(税込・椅子別売)
New RX-3G	1,732,500円(税込・椅子別売)
New RX-2G	1,417,500円(税込・椅子別売)
New RX-1G	1,260,000円(税込・椅子別売)

*価格には消費税(5%)を含んでいます。
*納入据付料は別途申し受けます。